



熊本再春荘病院医療連携室だより

再春



日本医療機能評価機構

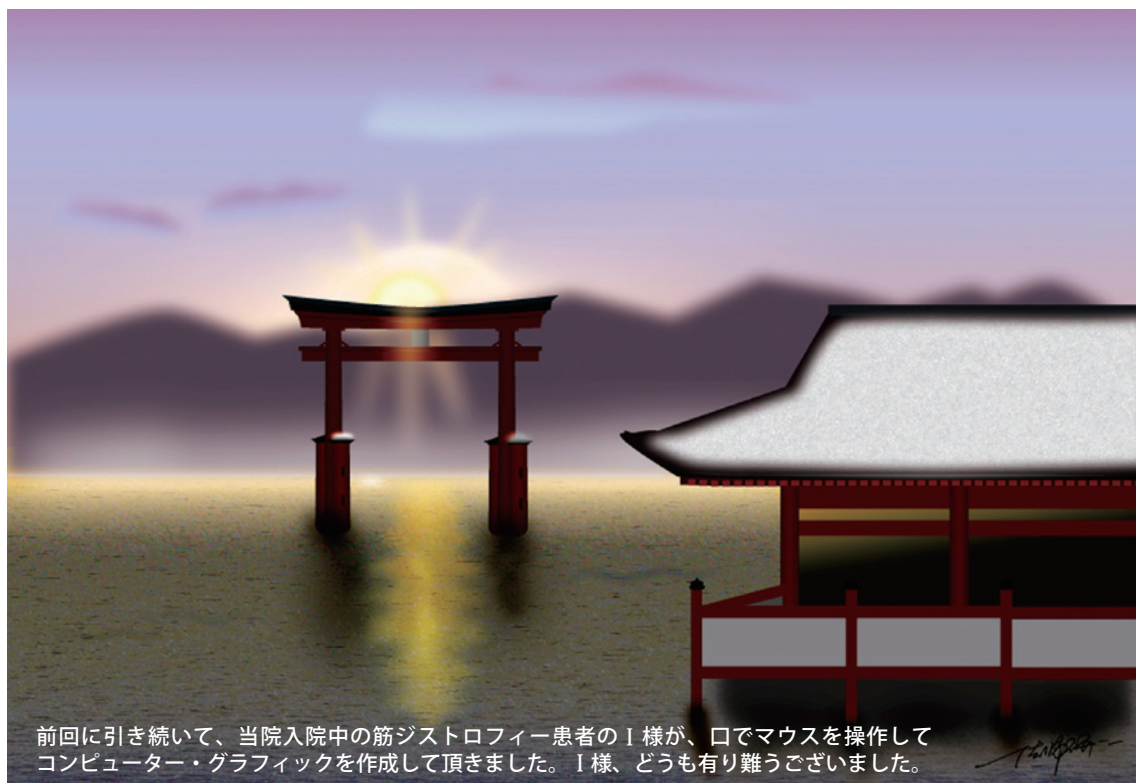
平成29年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院

編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



前回に引き続いて、当院入院中の筋ジストロフィー患者のI様が、口でマウスを操作してコンピューター・グラフィックを作成して頂きました。I様、どうも有り難うございました。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 新病院建替について 3
3. CT装置更新 4
4. 開放型病院登録医紹介【杜の里かねこクリニック】4
5. 診療科紹介【呼吸器内科】 5
6. 開放型病院登録医紹介【森田整形外科医院】... 5
7. 診療科紹介【消化器外科】 6
8. 国立病院総合医学会『表彰』 6
9. 医療連携の集い報告 7
10. 菊池救急医療研修会報告 7
11. 熊本再春荘病院学会報告 8
12. 健康フェスティバル報告 9
13. 看看・看介連携の活動報告 10
14. 院外処方箋について 10
15. 認定看護師活動紹介 11
16. 新任医師紹介 12

新病棟建設

病院長 米村 憲輔

暑かった真夏から急に涼しく、そして今はすっかり冬の装いと季節の進みは急激です。ほとんど秋は感じられないまま寒くなった気がします。地球温暖化の影響で日本では気候が極端になり、今後四季がなくなり二季（夏と冬）になると云われていますが、まさにその兆候かも知れません。

昨年の熊本は地震で大変な年でした。当院は余震を含め揺れこそひどかったものの人的被害はなく、建物や医療機器にも大きな支障はなかったため、なんとか診療を継続することができました。被災された方々にはあらためて御見舞申し上げます。また、このような大変な時期にもかかわらず、皆様には当院の運営ならびに医療連携に変わらぬご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて昨年より準備を続けてきました新病棟の建設が決まり、去る11月29日に来賓、工事関係者および病院関係者が出席して安全祈願祭が執り行われました。これまでも当院は、熊本県北部医療圏の基幹病院として、つねに満足いただける医療の提供に努めてきました。しかしながら施設の老朽化は如何ともしがたく、

そのために患者さんや医療関係の方々の要望に充分対応できないこともありました。その解決策として新病棟の建築は永年の念願でありましたが、ようやくこのたび建築できることとなりました。入院病棟を外来診療棟の上部に建設することで、立体的に集約し効率的な動線を確保、また治療用個室の拡充やさまざまな会議や研修に有用な会議室も確保しています。

新病棟の完成により、効率的な診療体制のもと治療の効率化が図られると同時に、外来や病棟のアメニティが大きく改善されることで、患者さんにも大いに満足いただける医療が提供できるものと確信しております。また、当院は地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、難病医療ネットワーク拠点病院等に指定されております。今後も診療業務はもちろんのこと、健康や疾病に関する情報提供による地域の健康づくり推進の役目も担ってまいります。このたび完成する予定の新病棟が、なお一層地域に貢献できる施設になる事を強く期待しております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

新病棟建替整備工事について

事務部長 南 孝春

昨年の10月より長年の懸案であった新病棟建替整備工事が始まりました。

工事概要は、全体工期が平成32年10月までの4年と長期に渡りますが、これは工期が大きく3期に分かれており、1期工事としてサービス棟新築に約1年、2期工事として、本館棟（外来治療棟、一般病棟等）新築に2年、最後に既存病棟の大規模改修（管理棟、更衣棟等）と既存外来治療棟の解体及び駐車場整備に1年かかるためです。

メインの本館棟は、地上8階の高層階で1階に外来治療棟、2階に大会議室、リハビリテーション部門、3階から8階が一般病棟という構成になっています。一般病棟は、既存病棟では14室しかなかった特別個室を45室へ大幅に増室し、患者サービスの向上、プライバシーへの配慮を高め、管理面においても感染対策の強化を図れることとしています。2階の大会議室は、200人収容可能の会議室で多様な研修、会議、講演等に対応でき、地域における医療連携拠点としての役割を充実させていくこととしています。

また、構造は鉄骨造・耐震構造で建築延べ面積は約20,000㎡、建物高さは地上36mに及び、近隣には高層階の建築物がないことから、一際目立った建物となる予定です。

一方、既存病棟を大規模改修して造る管理棟は、先般の熊本地震により使用に耐えうるか危惧されたところですが、診断の結果、問題ないとの結論を得て、管理部門、更衣棟、療育指導室、売店等が入る予定となっています。

外構整備では、救急搬送患者の受入をよりスムーズに行えるよう、一般外来進入路と救急進入路を完全に切り離し、外来駐車場は、従来の倍近い380台程度収容可能となり、患者さんや来院される方の利便性の向上が図れる計画です。

11月末には、工事の安全祈願祭を執り行い、本格的な工事がスタートしたところですが、地域住民の方々や地域医療機関の皆様のご期待に沿えるよう、職員一丸となって努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



更新後の128列CT装置のご紹介

放射線科 古閑 幸則

当院では昨年7月に、CTがシーメンス社製64列から同社製128列CTへと更新され稼働しています。従来のCTと比較して、管球回転速度が速く、1回転当たりの撮影幅も広がったことから、撮影時間が短縮し、体動などの動きに伴うアーチファクトの減少で、画質が改善され画像が見やすく、また息止め時間が半分に短縮されたことにより患者さんの負担も軽くなっています。

特に動きのある冠動脈の撮影に関しては、不整脈や頻脈などに伴う冠動脈画像のずれが減少し、診断がより正確で容易になりました。

その他、術後の体内金属や冠動脈ステントなどに対する金属アーチファクトの改善もあり、整形外科や循環器科患者さんの診断もより正確になっ

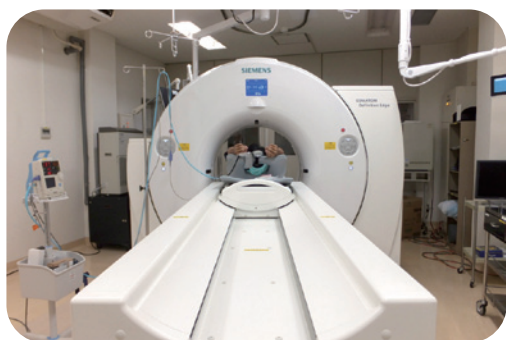
ています。

Voxel当たりの情報も緻密であり、任意断層面であるMPR画像や、3D-立体画像などに於いても画質が向上し診断しやすくなっています。

また、検出器感度の上昇に伴い、従来と同様の撮影条件では約25%の被爆低減となっており、患者さんに優しい装置となっています。

現在、近隣の医療施設よりMRIや核医学検査と共に、非常に多くのCT検査依頼を戴いておりますが、今後は更に安心できる検査と正確な診断に取り組み、皆様のお役立ちたいものと考えております。

当院への各種画像検査の紹介に際しましては、MRIや核医学検査共々CTを引き続き宜しくお願い致します。



開放型病院登録医紹介

杜の里かねこクリニック

院長／金子 洋文

熊本県菊池市藤田40-1

TEL 0968-23-7522 FAX 0968-23-7523

診療内容／内科、胃腸科、外科

診療時間／午前 9:00～12:30

午後 14:00～18:00

診察日	月	火	水	木	金	土	日
9時～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時～18時	○	○	×	○	○	×	×

杜の里かねこクリニック 金子院長先生には、平成23年7月より当院開放型病院登録医として、消化器外科、呼吸器外科をはじめ、数多くの患者さまをご紹介いただいております。

また、菊池市内を中心に、往診や在宅医療にも精力的に取り組まれ、地域の多くの患者さまの医療に貢献されています。



診療科紹介 No.4

呼吸器内科のご案内

統括診療部長
坂本 理

呼吸器内科は現在専門医4名をはじめとする医師6名体制で診療を行っており、主に呼吸器感染症（市中肺炎、医療・介護関連肺炎）、肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）を中心に、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、気胸など、呼吸器疾患全般にわたり幅広く診断・治療を行っております。平成24年には超音波気管支内視鏡を導入し、末梢肺野病変に対する正確な診断に加え、これまで気管支鏡では診断困難であった縦隔・肺門病変に対しても、診断が可能となっています。また熊本県指定がん連携拠点病院として、肺がんの診療には特に力を入れており、個別化医療（分子標的治療や免疫療法）、緩和ケア研修会や緩和ケアチームによる活動も行っております。さらに感染対策として、呼吸器内科医を中心とした感染対策チームが、呼吸器疾患に限らず、病院全体の感染症対策に力を注いでいます。

担当医／曜日	月	火	水	木	金
坂本 理	○		○		○
松岡多香子		○		○	○
浦本 秀志	○		○		○
廣岡さゆり		○		○	
小松 太陽	○		○		
中嶋 啓		○		○	

開放型病院登録医紹介

森田整形外科医院

院長／森田 直

熊本市北区植木町一木596

TEL 096-273-1011 FAX 096-273-1012

診療内容／整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科

診療時間／午前 8:30～12:30

午後 14:00～18:00

△14時～15時30分

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
8時30分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時～18時	○	○	○	○	○	△	×

森田整形外科医院 森田院長先生は、平成3年4月に植木町中心部に開業され、整形外科、リウマチ科の専門医として、多くの患者さまの診療をされております。

平成23年8月より当院開放型病院登録医として、整形外科、放射線科をはじめ、循環器科や神経内科など、数多くの患者さまをご紹介いただいております。



当院消化器外科は大原・富樫・川田の三人で、呼吸器外科小林の協力のもと年間 300 件を超える手術を行っています。胃がん・大腸がん・肝細胞がんなどの悪性腫瘍や胆石胆嚢炎・イレウス・ヘルニア・虫垂炎といった良性疾患まで多岐にわたりますが、その 80%以上を鏡視下手術が占めています。低侵襲で術後の回復も早い手術を目指しています。また、この度熊本大学医学部付属病院病理部とテレパソロジー（遠隔病理診断）システムが繋がり術中迅速病理診断が可能となりました。がん診療連携拠点病院としてより質の高い医療を提供できると期待されます。手術だけでなく悪性腫瘍の化学療法や緩和ケア、消化器疾患全般の内科的治療も広く受け入れており、内視鏡的ステント留置・総胆管結石切石等の IVR も積極的に行っています。何かお役にたてるようでしたらいつでもご連絡ください。ご紹介宜しくお願いします。

担当医／曜日	月	火	水	木	金
大原 千年	○	(手術日)		(手術日)	○
富樫 陽彦			○		○
川田 康誠	○				
小林 広典			○		

第70回国立病院総合医学会

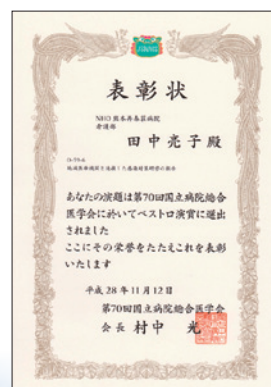
感染管理認定看護師 田中 亮子

このたび、第 70 回国立病院総合医学会に於きまして「地域医療機関と連携した感染対策研修の報告」という演題で発表いたしましたところ、ベスト口演賞を頂くことができました。

当院は熊本県北部の基幹病院として医療連携に尽力しているところですが、感染予防の面でも周辺地域の水準向上を目指した取り組みを行っています。その一環として、昨年より菊池圏内の病院、診療所の感染対策推進者の方々との研修会を始めました。研修では参加者へ、当院で行っている感染対策を実際に体験していただいています。感染対策で最も重要な「感染源を持ち込まない」「病原体を自分たちが拡げない」ための工夫を可視化し、自施設の感染対策に活用できることが目的であり、参加されたご施設

からも良好なご意見を頂いています。

演題発表後には「自施設の感染対策だけでなく、地域の医療機関の対策にまで目を向けることは重要だが困難なことであり、既に取り組んでいることは評価できる。」との講評をいただきました。今後も院内の感染予防活動のみならず、他施設の感染対策向上と地域全体の感染症低減に向け活動を続けていきたいと思っています。



第8回『医療連携の集い』

副院長 上山 秀嗣

平成 28 年 7 月 30 日 (土)、ホテル日航熊本において第 8 回『医療連携の集い』を開催しました。今年度は熊本地震が発生し多くの医療機関や施設の方々が被災されたこともあり、開催すべきか否か悩みました。しかし、敢えてこのような時期だからこそ近隣医療機関との病病・病診連携が重要であるとの判断の下に開催する運びとしました。出席者が少ないのではないかと危ぶまれましたが、院内外含め約 200 名の参加があり感謝申し上げます。

例年通り、開放型病院運営連絡協議会、地域医療支援病院諮問委員会に引き続いて、5 階阿蘇の間にて講演会を行いました。最初に副院長により「地域医療連携室からのお知らせ」を 10 分程行った後、当院整形外科部長の緒方宏臣医師により「最近のエビデンスに基づいた変形性膝関節症の治療戦略」との演題名で 30 分程の特別講演が行われました。その後「天草の間」に移動して行われた意見交換会では、多数の皆様方と懇親を深め盛会裡に終えましたことを御礼申し上げます。

当院は今後も地域医療支援病院としての役割を果たすべく、菊池医療圏をはじめとする近隣医療機関の皆様方との医療連携を深めて参りたいと思いますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。尚、来年度は 5 月 27 日 (土) に同所にて開催予定ですので、多数の皆様方のご出席をお待ちしています。



第10回 菊池救急医療研修会を開催しました

経営企画室長 前田 光一郎

本研修会は、菊池医療圏における救急医療の向上並びに救急医療関係機関の連携を高める目的として、年 3 回 (症例検討会 (2 回)、特別講演 (1 回)) 行っておりますが、本年度の特別講演は、4 月に発生した熊本地震に関して、菊池医療圏での振り返りを目的とし、菊池保健所長池田様より行政の立場から、菊池広域連合消防本部救急係長田代様より消防の立場から、医療法人社団川口病院長川口様より、菊池医療圏における災害拠点病院の立場から講演を行って頂きました。

未曾有の大地震であったこともあり、新聞報道等で見聞きしていること以上の現場で行われた活動内容のお話しが聞け、今後に繋げることが出来有意義な研修会となったところです。

この場をお借りしまして、ご講演頂いた 3 氏の方々に厚く御礼申し上げます。

第2回熊本再春荘病院学会について

管理課長 國分 克典

昨年の2月に第1回目を開催して以来、約1年半ぶりに「第2回熊本再春荘病院学会」を平成28年10月1日(土)に開催しました。

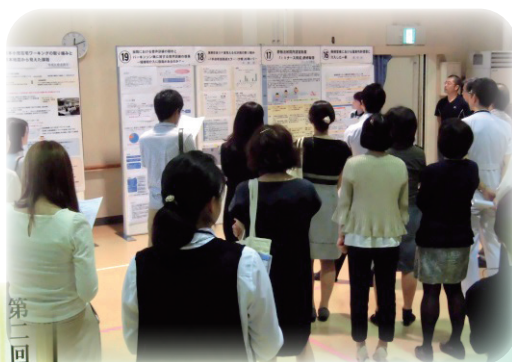
今回は11月に開催される国立病院総合医学会の予行練習も兼ねて10月に開催することとなり6月から演題を募集しました。なかなか演題の応募がなく開催できるか心配しましたが、口演15題、ポスター発表7題の計22題の応募があり無事開催することができました。学会当日は発表者を含め108名の職員が参加し、それぞれの発表後は質疑応答や意見交換が活発に行われました。医師、看護師、コメディカルの各職種が使命感を持って積極的に業務に取り組んでいる様子を知る良い機

会となりました。発表された職員の皆様ありがとうございました。

発表終了後、幹部による厳正な審査の結果、1位に田中感染認定看護師の「地域医療機関と連携した感染対策研修の報告」、2位に貞島栄養主任の「糖尿病透析予防外来の現状と今後の展望」、3位に藤本言語聴覚士の「当院における音声訓練の現状とパーキンソン病に対する音声訓練の効果」が選ばれました。

表彰式では上位3名の方に大会会長から豪華な表彰状と副賞が渡されました。

次回も職員皆様からの多数の演題応募をお待ちしています。



第二回
熊本再春荘病院学会



第14回健康フェスティバルについて

管理課長 國分 克典

平成 28 年 10 月 23 日（日）9 時 45 分、新調したポロシャツに身を包んだ職員が旧機能訓練棟に集合し、開会式が執り行われ「第 14 回健康フェスティバル」が開会しました。

朝から降り出した雨に来場者の出足が心配されましたが、予想に反し健康講座が始まる 10 時ごろには多目的ホールに百名を超える受講者が集まりました。最終的な来場者は 249 名で昨年を上回り大盛況でした。

11 時から健康測定、健康相談、実演・体験コーナー、キッズコーナー、綿菓子・ポップコーンコーナーと催しがあり大勢の人が参加、体験されました。毎年、混雑する骨密度測定では、契約係の取り計らいにより測定器を 2 台用意していただきスムーズに測定が進み好評でした。各測定が終わるころ判定コーナーに長蛇の列ができ、予定になかった院長、副院長、統括診療部長などの先生方も判定に参

加していただきました。「判定に参加された先生方ありがとうございました」

また、キッズコーナーには 5 レンジャーならぬ「あらうんジャー」が現れ子どもが怖がるハプニングがありました。

測定コーナーでは、順番、並び方がハッキリせずプチトラブルもありましたが、アンケート結果では「スムーズに測定ができました」「来年もつづけて参加したいです」「毎回楽しみにしています」「看護師の皆様のテキパキした行動にはいつもさわやかさを感じています」等の大変ありがたいご意見をいただきました。

最後に前日及び当日朝からの準備と後片付けにご協力していただきました、職員、実行委員の皆様大変お疲れ様でした。今後もよりよい健康フェスティバルを行いたいと思いますので、来年もよろしくお願いいたします。



看看・看介連携の活動報告 No.2

—熊本再春荘病院地域医療連携連絡協議会—

地域医療連携室
栗山 元子
笠 育美

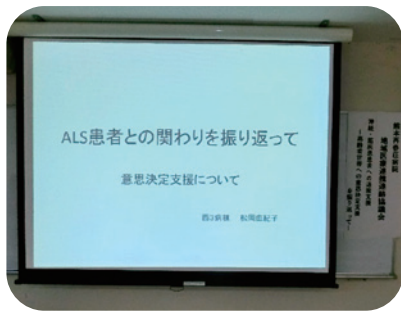
地域の関連施設の看護職・介護職との連携を深め、入院患者へのより良い退院支援につなげようと平成21年に発足したこの会も7年目を迎えました。連携全般に関すること・当院への要望・事例検討会・学習会・連携施設紹介などの内容で、年に4回開催しています。会員には、近隣の医療機関、訪問看護

ステーション、居宅支援事業所、包括支援センター、介護施設などから100施設が登録しています。

今年度は「神経難病の看護」をテーマに、主な疾患と看護についての学習会や事例検討を行っています。10月27日に開催した第32回目の会議では、公開シンポジウムを開催しました。神経難病患者の在宅療養に関わっておられる在宅医、ケアマネージャー、訪問看護師

と、当院の日本難病看護学会認定看護師をシンポジストに、意思決定支援について意見交換を行いました。参加者からは、病状の進行過程の中での支援の在り様や在宅側と病院との連携の実際がよくわかったとの意見がありました。また、当院の病棟看護師も在宅療養の様子を聞き、地域との連携の大切さを再認識したようです。

今後も、地域に役立つような活動をしていきたいと考えています。ご質問やご意見、ご要望などございましたら、お気軽に担当までご連絡ください。



院外処方せんに血液検査数値の記載を始めました

経営企画室長 前田 光一郎

電子カルテ（富士通HOPE/EGMAIN-GX）システムのバージョンアップ（V6よりV7）に伴い、平成28年12月1日（木）より血液検査結果の一部を院外処方せんへの記載を始めました。

このことについては、当院の基本理念である安心と信頼の医療を提供する一環として、地域の保険薬局の方々のご協力を頂き、従来の用量や相互作用だけではなく、患者さまの状態を把握し調剤を行って頂くことで、肝機能や腎機能に応じた投与量の適正化や副作用の早期発見を期待するものです。

表示する検査項目等については、WBC、Hb、Plt、PT-INR、AST、ALT、T-Bil、血清Cr、eGFR、CK、CRP、K、HbA1c、検査実施日、基準値、身長、体重、体表面積となっています。

なお、バージョンアップに伴うシステム停止の間、救急受入の停止に際し、皆様にご協力頂きありがとうございました。

認定看護師活動のご紹介

看護部長 橋本 美佐代

I. 認定看護師について

日本看護協会認定看護師とは、「特定の看護分野について優れた知識と熟練した看護技術を持つ日本看護協会が認定した看護師のこと」であり現在、感染管理分野など 21 分野があります。この他に専門学会が独自に認定した学会認定看護師もあります。

II. 熊本再春荘病院で活躍する認定看護師について

●日本看護協会認定看護師

- ①感染管理 2 名 ②がん化学療法 1 名
- ③緩和ケア 1 名 ④皮膚・排泄ケア 1 名
- ⑤慢性呼吸器疾患看護 1 名の合計 6 名が資格を取得しています。

また、次年度には糖尿病看護、摂食嚥下障害看護の分野でも認定看護師が誕生します。

●日本難病看護学会認定の「難病看護師」が 8 名、筋ジストロフィー病棟や ALS センターで勤務しています。

III. 活動の紹介

1. 地域医療職対象：院内感染対策研修開催

保健所との協賛で地域のクリニックなどの感染対策推進者に対し、講義と院内環境整備の工夫など見学研修を企画、平成 27 年は 17 名、平成 28 年度は 16 名の参加を受け入れました。当院の感染対策ラウンドの実際など見ていただき各施設でのヒントになっているようです。

2. 地域医療職対象：「再春ゼミ」開催

平成 28 年度は 10 月～11 月に感染対策 4 回、1 月～2 月に呼吸器看護 4 回を開催しました。感染対策の講座 2 回まで参加者はのべ 64 名でした。看護師以外にも補助

者の方の参加もあり、基本的感染対策の学習を行いました。1 月からの呼吸器看護についても多くの参加をお待ちしております。

3. 施設派遣と出前講座

感染管理と皮膚排泄ケアの両方で介護施設に出向き、学習会を開催しています。また、出前講座の講師もさせていただいております。今後とも是非活用していただければと思います。

4. 院内看護の質向上活動「IV ナース育成（静脈注射院内認定制度）」について

看護師の静脈注射技術の知識と態度のスキル向上に認定制度を立ち上げ、初級、中級、上級コースを開設し、段階的学習を進めています。今年度上級合格者は 6 名でした。

5. 神経難病研究会

地域の訪問看護師さんの相談にのることからはじめ、在宅の神経難病患者さんの QOL の向上に寄与できるよう活動計画中です。

IV. 今後への期待

院内では認定看護師の組織横断的な活動により、多職種チームも活性化しています。それにとどまらず、院内から地域へと活動の幅を広げ、より地域貢献に参画することが求められる時代です。地域からお気軽にお声かけいただくことで認定看護師自身も成長できると考えます。たくさんの成長の機会を戴けますよう、よろしくお願いいたします。



新任医師紹介

神経内科

岡田 匡 充



昨年 10 月より勤務させていただくことになりました平成 25 年卒の神経内科の岡田匡充と申します。済生会熊本病院での研修を経て熊本大学医学部附属病院、熊本市市民病院にて勤務し、前任は国立病院機構熊本南病院でした。当院で勤務するのは初めてですが、神経内科医として日々成長し、医療を通して地域の皆様に貢献できるよう精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

整形外科

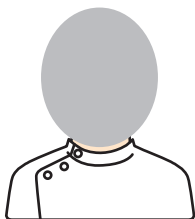
永田 武 大



初めまして。整形外科の永田武大と申します。昨年 10 月 1 日に再春荘病院に赴任いたしました。9 月までは熊本市市民病院に勤務しておりましたが、震災の影響で再春荘病院に異動となりました。学生時代は星を眺めるのが好きでしたが、病院からの帰り道に、この地のきれいな星空に癒されています。再春荘病院の患者さまのため、よりよい医療を提供できるように頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科

竹村 健 一



整形外科の竹村健一と申します。昨年 3 月までは人吉医療センター、4 月に熊本市市民病院異動となりましたが、皆様ご存じの通り震災の影響により診療が出来ない状況が続きました。しかしその間、避難所訪問や市役所での災害対策本部業務など、貴重な体験を数多くさせて頂きました。10 月から再春荘病院に採用となり、まだ 3 ヶ月という短い期間ながらも、リハ室スタッフとのリレーマラソン参加や、忘年会でのキスシーン披露など、既に再春荘ライフを楽しめておりますのも、院長を始め、スタッフ皆さんの温かさのおかげと思い感謝しております。今年も、仕事の出来る幸せを噛みしめながら、患者第一の医療を心がけ頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

研修医

吉田 伸 也



昨年 10 月より再春荘病院で初期研修をさせていただいております、研修医 2 年目の吉田伸也と申します。再春荘病院では本年 3 月まで各診療科をローテーションし、研修させていただく予定です。昨年 9 月までは熊本大学医学部附属病院で研修をしていました。

再春荘病院は医師だけでなく、コメディカルの方々や事務員の方々と距離が近く、いろいろ相談させていただけるところがよいと感じております。

技術的にも知識的にもまだまだ未熟で、できることも限られていますが、よろしくお願い致します。

